

# 図書館に行って自分をバージョンアップしよう！

鈴木基子(教授 中国語)

今から20数年前になるが、卒論のテーマをどう決めたらいいのか、どうやって書いたらいいのか全くわからなかった。助手の先生に尋ねると「大学生はある程度評価の定まった論文や論説を選び、先行研究を多く読むことで、その書き方やテーマの設定を学ぶとよい」といわれ、論文がどこにあるかもわからない私に、各種の専門誌と論説資料集の存在を教えてくださいました。やっとのことでテーマを決め、関連書籍を入手し、図書館や研究室で図書カードをめくり、索引や目録の頁を凝視しては、ノートにひとつひとつ論文名と出典などを書き写した覚えがある。

今の学生はこのような手間をかける必要が無く、コンピューターで検索をすれば一瞬のうちに、多数の論文や関連書籍を入手することが可能である。時代が違うといえればそれまでだが、ここ20年来の変化は非常に大きいと思う。思えばワープロ、パソコン、携帯もファックスもない時代で、提出物は手書きであった。今の学生の美しい活字のレポートとは大違いであった。

しかし、肝心の中味はどうであろうか。果たしてあの頃と比較して進化が見られたのであろうか。おそらくその答えはノーであろう。どんなに便利になっても、文献資料を読破し、論を構築するのは自分の頭に頼らざるを得ない。それはある意味で、面倒で重苦しい作業でもある。どんなに周辺機器が進歩しても、人間の頭は教育と成長過程が必要なのだ。多くの資料を手作業で探す時間が省略され、その分熟考する時間が増え、それらを効率よくまとめて書き出せる点では、今の学生は恵まれていると思う。それに、苦勞して書き上げた時の達成感は、実に気持ちのいいものだ。

20数年前、日本や中国の書店をさまよい、時間をかけて書籍を入手した時とは隔世の感がある。以前、中国では特定の書籍の入手が難しかった。在庫があるかどうか調べるサービスも稀であった。ある中国の友人曰く「本がほしかったら彼女に言ってね！友人だから」そんな時私は「本を買うことくらいでコネを使わなければならない……」と心底疑問に思ったものだ。情報化社会になり、外国の書籍や論文の入手も以前より飛躍的に便利になった。宅急便を利用すれば数日で届くこともある。それでもなぜか、自分の足で本を探すという行為はやめられそうもない。インターネットで入手した本の表題と中味が期待通りではなかった場合の失望は大きい。少なくとも実物を見て買えば、ある程度内容に失望することは避けられる。ウォーキングにもなり、健康に良いこと確実である。

アメリカのチャイナタウンで、日本や中国で入手できなくなっていた本を見つけた時は非常に嬉しかった。特に専門書となると発行部数が少ない為、購入時期を逃すと二度とお目にかかれなくなるということもある。そんなとき、何の期待もせずふらふらと書店をさまよい、ほしかった書籍に出会えると、思わず旧友に再会したような懐かしさを覚えて感動する。

今の学生は器用である。指示を与えるとそれなりにやりこなす能力を持っている。勉強以外にも、学生時代にあまりにも多くのことをこなしているように見える。しかし、パソコンに頼る分、落ち着いて読書する時間が減っているようである。高校のゆとり教育が見直されているが、大学生になったからこそ、ゆとりを持って大学生らしく図書館で勉強に励んでほしいと思うのは私だけであろうか。中国の大学の図書館では、朝から席をとる学生でいっぱいであった。夜の教室も自習する学生であふれていた。キャンパスのベンチや木陰で勉強をする学生も多く見かけた。厳しい受験戦争を勝ち抜いてもまだ更に勉強しようという意欲に満ち溢れていた。アメリカの大学図書館では、24時間勉強できる部屋があった。アメリカでは高校生活は楽しむことに熱中するが、大学でしっかり勉強しないと、単位取得や卒業は難しい。

みなさんは何を学ぶために大学へきたのだろうか。本を一冊読むと、いくつかの疑問や興味が沸き、さらに関連領域の本を読みたくなる。知識の泉は永遠で、枯れることはない。パソコンに「完成品」がないように、知識も「半製品」で、永久にバージョンアップする必要があるだろう。書籍から得る楽しみは永遠に果てることはない。大学時代にもっと勉強しておけばよかったと社会に出てから嘆くのは遅い。もっと図書館へ行って自分をバージョンアップしよう。自省の意味も込めて！